新たな企業連の出発を

企業連新春交礼会

1月15日「部落解放和歌山県企業連合会2016年新春交礼会」が、ダイワロイネットホテルで多くの来賓が参加のもとひらかれた。

あいさつする瀧口理事長

瀧口秀光・理事長から年頭のあいさつがあり、今日の日本経済は、中国経済の減速や北朝鮮の核実験などの影響をうけて、世界経済への先行き不安が強まり、株安・円高がすすんでいる。金融緩和や成長戦略などの経済政策によって、企業業績に改善の兆しがみられたものの、労働者の賃金水準は未だ回復に至っていない。

また、今年から「マイナンバー制度」がスタートし「社会保障・税・災害」に関する個人情報を国が管理・利用できる仕組みが制定された。将来的には、銀行口座や検診内容などあらゆる情報が管理され、利用範囲拡大がみこまれている。民間にも普及すれば個人情報漏えいの危険性が高まるため、個人番号の利用については、税や社会保障等の必要最小限にとどめる必要がある。

企業連としては、部落差別にむけた運動の前進と厳しい経済状況に企業者が対応できるよう経営指導の強化を徹底し、部落産業の育成と振興にむけたとりくみを推進していくことが重要であると述べた。

藤本哲史・部落解放同盟和歌山県連合会執行委員長から、年頭のあいさつがおこなわれるとともに、来賓を代表して和歌山県の藤本陽司・商工観光労働部長、和歌山市の尾花正啓・市長よりあいさつをいただいた。

その後、和歌山県信用保証協会の増谷行紀・理事長のあいさつと乾杯のもと、出席者による懇親を深めた。

【来賓】

●和歌山県
藤本陽司・商工観光労働部長、田中達也・商工労働政策局長、青木茂二・商工観光労働総務課長、南木芳亮・商工振興課長、高瀬一郎・企画部長、北山芳宏・県参事、更井俊児・人権政策課長、宮田行雄・人権施策推進課長

●和歌山市
尾花正啓・市長、富松淳・市長公室長、川端康紀・総務局長、大西勉己・産業まちづくり局長、有馬専至・産業観光部長、小嶋義之・商工振興課長、南方節也・都市計画部長、西本幸示・都市計画課長、山本彰徳・市民環境局長、坂口智己・市民部長、中村文治・市民生活課長、山下勝則・人権同和施策課長

●日本政策金融公庫和歌山支店
金子英一郎・支店長兼国民生活事業統轄、吉田健一・中小企業事業統轄、野村文雄・農林水産事業統轄

●和歌山県信用保証協会
増谷行紀・理事長、堀川与利人・常勤理事

●和歌山商工会議所
野田寛芳・専務理事、上田賢司・理事

●和歌山県商工会連合会
潰瀧順一・専務理事

●㈱紀陽銀行本店
小上隆・人事相談室長

●顧問税理士
仁木靖夫・橋本義彦・籔田雅秀

●顧問弁護士
藤井幹雄

●顧問行政書士
新井悠喜雄

●融資審査委員　宮本澄麿

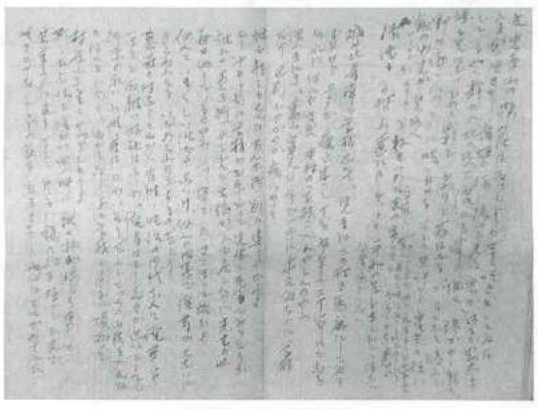
【祝電・メッセージ】
片山博臣・和歌山商工会議所会頭、岸本周平・衆議院議員、門博文・同議院議員鶴保庸介・参議院議員、世耕弘成・同議院議員
（順不同・敬称略）

阪本清一郎備忘録(4)

誰れがあんな所へやるもんか、生徒が一人も居らんのに先生の奴毎日何いているのやろ。一ソ皆でたゝきこぼって終ふよ。何んといま〳〵しい話ぢゃないけ。何んの因果で俺等がこないにきらわれたり、いぢめられたりするのだらう。幕府の時ならともかく、有難い明治の御代なんて俺等にゃ一寸とも有難い好能はないわ。俺等はモー先きが近いとしても行末の永い小供等はかわいそうだ。モシこっちの小供を入れぬの何んとグズ〳〵ぬかしたら、あの学校も□手に焼払って村長も先生もヤッテしもうよ。

欺した会話は暖かい田の畔に鍬の柄に腰した男と、若草の上に尻を下して片手に鎌の柄を持って刃先で咲きかけたゲンゲの花を立たきながら無心にとにかわされた。欺した会話は野に働く人だけではなかった。山に嫁ぐ人達にも米をトグ井戸端の女房連にまでも、共同風呂の中にも盛んにとり替された。不安と憤怒の空気ははこの村のスベテを包んでいた。そこへ村の東の法から歩るきの弥衛門の声が聞へて来る「どうど、明日のあさ八時に皆親連が学校行を連れてお寺へ集まってくれやのう」何時も、歩きながら口早に浮いた様に振れ回っていた弥エ門も、今日は一々戸口に立ってホウカムリもせずに、ハッキリ何をか暗示を□つる様にと底力のある声で振れ込んで行く。

（次号につづく）


『備忘録』（部分）

連載（1）

よき日のために

芽から花を出し
大空から
日輪を出す
歓喜よ
にはじまり、
起きて見ろ―夜明けだ。

おまえたちの幸福を望み、おまえたちの苦痛を悩むところの光をもたらすものだ。太陽の回帰を告げる暁の新しい星をごらん！あれがわしの星で、あの上に「真理」の光を反射する鏡がかかっている。

でおわる水平社創立趣意書は、1922年2月5日に発行され、編輯兼発行印刷人は水平社創立発起者とあり、『明治之光』（※1）に掲載されていた知名人、会員、読者を拾い出して発送された。西光万吉によって記されたこの一冊は、佐野学の『「特殊部落民解放論」の「解放の原則」を引用し、ロマン・ローラン（※2）の影響をうけ、ロシアの文学者であるゴーリキー（※3）の『どん底』から「人間は尊敬すべきものだ、あきらめの運命より闘争の運命を自覚せよ、われらの前に無碑道がある、起きてみろ、夜明けだ」と水平社創立の理念と必然性をウィリアム・モリス（※4）の文章を的確に引用しながら記された一冊だ。

今号から、水平社の創立の理念と必要性が記された「よき日のために」を簡単ではあるが説明をくわえて連載する。

よき日のために
（水平社創立趣意書）
わたしはルシファー！

吾人の記憶すべきことは、文明（封建的階級制）は労働者（われわれ）を駆って、われらかくのごとく貧弱にしてかつ悲惨なる存在に至らしめたがために、彼らはほとんど今日持続するものよりさらによき生活を考慮することができないということである。

（ウイリアム・モリス）

（一）解放の原則

特殊部落の人々は明治4年の解放令によりて解放された。彼らは平民の籍にはいった。しかしながら、凝結した歴史的伝統は、一片の法令をもってよく破壊しうるものでない。

（次号につづく）

（※1）大和同志会の機関紙
（※2）フランスの平和主義者
（※3）ロシア文学の巨匠、社会主義者
（※4）イギリスのマルクス主義者